

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100530		
法人名	株式会社 サンコーライフサポート		
事業所名	グループホームうきうき		
所在地	熊本県宇土市松原町120-2		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうきうきでは、家庭的な環境の中で、利用者様の思いをくみとり、一人ひとりの不安感や寂しさを和らげ、笑顔ある生活の提供のために、職員一人ひとりが考えるケアの提供を実践しています。コロナウイルス感染を予防しつつ、館内で出来る毎週月曜日のシニアヨガでは、日頃動きの少ない利用者様も、職員が驚く動きをみせられます。又、散歩やドライブへ行きたいとの要求に答え、毎週日曜日には、外出の日を設けています。季節の行事を積極的に取り入れ、昨年より力を入れ、日頃見れない笑顔を沢山見ることが出来ました。利用者様と地域の皆様との関りや、ご家族との面会も今年度はできず、利用者様の不穩に繋がらないか心配しましたが、一人ひとりに寄り添う事で、大きな事故もなく、笑顔で過ごしていただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年は管理者の交代という過度期にあるが、新体制のもと全職員が新管理者を盛り立て、コロナ禍のいう制約の中でも職員の得意分野を発揮させながら、基本理念として掲げる「心うきうき・身体うきうき・明るい笑顔」の実践は、高齢化する入居者の生活に彩りとして生かされ、笑顔ある日常であることが便りの中に表出している。地域住民が心待ちにされる「ふれあいカフェ」やうきうきヨガでの交流の他、自治会からのマスクの提供等地域密着型事業所として確固たる基盤が作られている。入居者の言葉や仕草、行動等から思い等を引き出し、個別のより良い暮らしの継続に向けた課題や潜在するニーズの把握に努め、本人本位に基づき支援していることも、ドライブ場所の選択や自販機の利用支援などに表れている。住み慣れた場所を終の棲家としてホームでは主治医の指示や訪問看護、家族の協力による看取りケアに敬意を表したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎日朝礼で「心うきうき 体うきうき 明るい笑顔」の理念を唱和し、常に全員が理念を意識し、利用者様の笑顔を求め、日々の業務に取り組んでいる。	基本理念を基に、個人の尊重、安全・安楽、社会参加を具現化して示し、唱和による意識強化を図っている。今年度は、管理者の変更という過度期にあり、風通しの良い環境作りを目標として掲げている。基本理念で謳う「明るい笑顔」に、まずは挨拶にあるとして目と目を合わせた挨拶に心掛け、コロナ禍の中でも職員の工夫により「心うきうき、 身体うきうき」した日常生活を支援している。笑顔ある日常であることが便り「ひなたぼっこ」に表れており、基本理念を実践するホームである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、春の地域交流バザー、秋の敬老会では地域の皆様との温かな交流等行っていました。今年度はコロナウイルス感染予防のため、自粛しました。地域の高齢者の皆様への宅配弁当は継続して行っています。	自治会へ加入し、回覧板により情報をリサーチし、これまではクリーン作戦や観音様の掃除等に参加していた。コロナ禍によりホームでの行事(地域交流バザーや敬老会)は開催できない状況にあるが、地域住民の希望によりふれあいカフェ(月2回)を少人数で開催している。また、配食サービスは地域高齢者の見守り支援として継続している。自治会からは使い捨てマスクが寄せられる等関わりの深さや良好な関係が築かれている。	これまで築き上げた地域との交流として地域交流バザー等大々的に開催されてきた過程のなかで、介護現場に目を向ける等相乗効果が表れており、再開できる状況になれば早期の開催を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は思うようにできなかったが、ふれあいカフェはコロナウイルス感染の状況を見ながらおこなないました。実施日は皆様大変喜ばれ、お話に花が咲きました。軽い認知症の方も見られてきています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	うきうきでの皆様の生活の状況をお知らせしたり地域の方々の情報をお聞きしたりしていましたが、今年度はコロナウイルス感染予防の為1回の開催となりました。出来なかった5回分のうきうきの情報は文章にて皆様へお届けしています。	運営推進会議では、入退所や各入居所の状況報告、及び行事報告や予定等生活風景の写真とともに意見交換を行ったり、豪雨緊急マニュアルを新たに作成しこの会議の中で開示し意見を求めたり、地域の一人暮らし高齢者問題を話し合い、ホームも協力事業所として情報を収集する機会とするなどこの会議が果たす役目が一段と高まっている。開催できない場合には書面を各委員に持参する体制としている。	開催できない回は、書面での開催として管理者が各委員宅に出向き配布されている。次のステップとして報告とともに、意見等も収集されることを期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催は少なかったのですが、今年度の指定更新の際は、市の介護保険係の皆様へは、質問に対し丁寧な対応をしていただきました。	今年度は事業所に指定更新に当たり、市の担当者に不明な点などを相談したり、新型コロナウイルス感染症の情報が寄せられ、地域包括支援センターや市の居宅等に空き状況を発信し、地域包括支援センターからの入居相談等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回／月の勉強会で、拘束の有無、必要性を話し合いながら、拘束をしない介護に取り組んでいます。	身体拘束等廃止に向けた指針を整備するとともに、身体拘束廃止委員会を設置しているが、全職員が一堂に会することはコロナ回では難しい状況にあり、毎月の勉強会の中で検討している。転倒リスク対応に低床ベッド、畳をベッドの下に敷く等工夫し、センサーマット使用(夜間帯)には運営推進会議の中で説明している。職員の言葉遣い等職員同士が注意喚起している。	拘束をしないホームとして基本方針等掲示を検討いただき、訪問者への明示とされることが期待される。また、職員の言葉遣いについては、今後も、職員同士が注意喚起されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体的な虐待を見逃さなケアを実行日々腕や足のチェック、入浴時の全身チェックを行い、言葉使いにもお互いが注意しあっていますが、時に自尊心を傷つける言葉や、自分のペースに利用者様を合わせるケアが見られる事がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部の研修が見送られていて、残念ですが、学ぶ機会がありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書やプライバシーポリシー等、管理者が丁寧に説明を行い、疑問や不安が無いか、時間をかけ納得されるまで、説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者様の生活状況の報告の為の介護記録や情報報新聞を送付し、ご家族からのご意見を伺うための返信用葉書を同封しています。年1回のご家族総会では年間収支報告、生活の振り返りの発表や質疑応答の時間を設けています。	家族への情報発信源としての“ひなたぼっこ”便りの中で、行事予定や外部評価、運営推進会議の情報等を発信し、同封するはがきにより意見等を収集しケアサービスに反映させている。毎年家族総会を開催し、家族との意見交換を行っている。また、開催ができた回には“ひなたぼっこ”通信の中で開示している。	コロナ禍により、家族は駐車場から入居者に手を振られたり、窓越し面会であり、会えないことが家族の不安に繋がる事も予測される。家族の健康状況等も鑑み、会える状況を見極め、面会を再開いただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は、定期的に打ち合わせを行い日々の報告はメールで行っています。スタッフへの情報伝達は、朝礼や1回／月の勉強会で周知徹底しています。	日々の申し送りの他、管理者はケアの中で職員の意見を収集し、代表へ上申する体制として、日々メールでの報告に加え現在は毎月リモートで会議を開催している。また、代表はホームを訪れ状況を把握している。館内行事に職員の持つ得意性を生かし、コロナ禍の中で職員の悩みや不満の無い環境へと風通しのよい環境作りに全員が一致協力して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は賃金体制の人事体制度の整備、公表を行い、個人との面談を行って職員のやる気向上に努められています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防のため、外部研修が極端に減っています。サンコーライフサポートでは、リモートでの研修を行っています。「ノーリフト研修」等を行い、職員の身体負担軽減のため、マニュアル作成を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区グループホーム連絡協議会に例年は参加していましたがコロナウイルス感染予防参加できず姉妹施設との勉強会は常に行っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者と看護婦が面接を行い入所後は介護の基本傾聴の務め全スタッフで情報交換し1日でも早く安心な暮らしが送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	守秘義務の説明を行い介護に必要な情報収集を行い、家族の困っていること、不安なこと、要望を聞きともに利用者様を支える協力体制を築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの情報要望や、事前情報を参考にしながらスタッフ間で情報の共感を行いながら精神面、身体面に必要なサービスのカンファレンスを行い本人様が安心して生活されるように話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じた役割をもってもらい、本人様が必要とされていることを感じていただき安心できる居場所であるよう、職員も言葉をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、病院受診、外出、一時帰宅等で交流の機会を作っている。本人の状態は毎月の介護記録や必要時は電話で報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会や、ご兄弟との面会等の機会を設けたり、行きつけの美容室へ行かれる等の支援をご家族と相談しながら行っています。	家族や兄妹の訪問や、毎月美容室からの送迎を受け利用する入居者、銀行や財布を持ち自販機で飲みものを購入される等社会性も視野に支援している。携帯電話を持ち込み、家族と連絡を取り合う方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係づくりに目配り、気配りを行っている。時に口論になるとときには職員が中に入りお互いの誤解を解くようにしたり、席の変更をしたり気持ちよく過ごしていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人に会いに行ったり、相談があった時にはその都度、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の様子を観察しスタッフ間で話し合い会話で思いを引き出し本人の希望に添えるように動いている。	入居者の中には、行きたい・したい事等直接話される方もあるが、意思疎通困難や言葉を発せない等の状況に、どちらがいいか見てもらう等選択できるような声かけや、うなづきや表情を把握し推察しながら本位になるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしをご家族から情報収集し出来るだけ馴染みの暮らしを続けていただけるようえんしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者、日勤者の申し送り、介護記録や生活チェック表等で1人一人の状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の勉強会でモニタリングを行い、日頃の家族からの要望を面会時や電話で確認し、看護師からの意見、介護職の気づき等で問題等課題分析しより良いケアに繋げている。	入居時に入居者の気持ちや介護への願い・要望等を聞き取りしている。毎月の勉強会に各担当者がモニタリングして持ち寄り、他の職員の意見や気づき等プランニングに反映させている。退院に向けた見直しや変化がない入居者には介護保険更新時に見直している。出来る事はしたいとする希望等個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録、生活チェック表を活用し、個人の体調や心身の変化を知り、毎月のモニタリングで話し合い必要時はケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の多機能業種の特徴を生かしひとり1人に適した福祉用具サービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の行きつけの美容室の協力を得て月2回送迎をお願いし整髪をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医やかかりつけがない場合には協力医療機関の存在や近くの医療機関からの往診も可能であることを説明し結果、もその都度報告している。	入居時に主治医の存在を確認するとともに、協力医療機関がある事を説明している。受診には看護職員が同行し、心身のレベル・体調により家族の同意を得て訪問診療としている。また、日々の健康管理の徹底及び心身の異常の早期発見に努めている。口腔ケアが必要な場合には、訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の体調の変化にいち早く気づき看護師への報告、相談できる体制が出来ている。又、看護師も日中、利用者の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族とホームで連絡を取り合い、入院中は不安感を和らげるため、面会に行き、治療がスムーズに進むようご家族と情報交換を行なっている。ご家族の相談事にも応じ、早期退院へ繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、将来の意向を確認している。ご家族の気持ちの揺れ動きを視野に入れ、その時々確認を行ない、主治医の指示の元、その方らしい終末期をスタッフ全員で御家族とともに支援している。	入居時に看取り指針のもと、意向を聞き取りしている。また、家族の思いも変化するとして体調の変化時等定期的に意向を確認している。主治医からの提案(住み慣れた場所が良いのでは)の下、同意書を交わし、入居者に声掛けをしてもらう等家族の協力を得、一緒に看取りを行っている。また、毎月の勉強会の中で、看取りケア支援後は精神的な負担に繋がらないよう職員の意見等を聞き取りする等偲びのカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中は、介護職と看護師が連携し、看護師の指示の元対応している。看護師のいない夜間帯は、急変時のマニュアルに沿って、オンコールで看護師の指示を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回火災避難訓練を行っている。豪雨災害対応のためのマニュアルを作成し、災害対策に備え、備蓄の一覧表を作成している。	年2回避難訓練を行うとともに、ガスの元栓や埃・コンセントをチェックするとともに外観機能点検や総合点検等を行っている。豪雨災害後緊急マニュアルを作成し、運営推進会議の中で開示している。備蓄も一覧表としている。	昨今の自然災害は計り知れないものがある。2階と3階がグループホームであり、避難も難しいことと思われる、有事に際し職員が不安に感じない様に今後も継続した訓練に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の習慣に合わせた言葉かけを行い、人格を傷つけたり気分を損ねる事がないようにしている。プライバシーに関しては、入浴時の同性介護希望の確認を行いPTイレにはカバーによる目隠しを行っている。	入居者一人ひとりの生活歴等によりその方に応じた声かけを行い、プライバシーを損ねないよう心掛けている。呼称も苗字にさん付けとし、家族にはプライバシーポリシーを基に説明、写真や部屋の表札等家族との同意を交わしており、写真を掲載しない等個別に対応している。入浴時の同性介助、ポータブルトイレのカバー等入居者の気持ちに寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認し否定したり強制したりしない本人の意思決定が難しい方は、本人の表情を読み取りながら希望に沿うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活習慣を尊重し、できる限り意向に沿った生活を送っていただいているが、規則正しい生活も考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みを確認し、服選びは本人と一緒にしている。定期的に行きつけの美容室へ行かれる方の支援やネイルケアも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による献立を基に、厨房での調理と2回／週各ユニットで行っている。その方の食事形態に合わせて提供している。その方に合わせた、配膳やお盆拭きなど職員と一緒にしている。	厨房での調理日と、日曜日・火曜日には各ユニットでの調理しておる、入居者も野菜の皮むき等の手伝いや、盛り付け、お茶入れ、下膳・食器洗い、お盆拭き等出来る力を発揮させている。入居者個々に合わせた食形態のもと、全介助の入居者中心に介助している。家族の協力や入居者の一緒になった畑作りは(じゃがいも・豆・大根に椎茸等)は、草取りをしたり、収穫等楽しみ事として、及び食卓に上れば会話へと繋げている。先人の知恵を借りていることも高菜漬け等に表れ、その様子は便りの中で開示している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で、栄養のバランスを取ってもらい入居者様それぞれの体調を観ながら食事と水分の摂取量観察し異常のある方は看護師に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援行いながら、毎食後口腔ケアを徹底しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの入居者様がトイレでの排泄を行っている。尿意がある方、ない方それぞれに合わせた自立支援を行っている。	個々の排泄状況を把握し、自立した方でも場所が分からない場合もあり、トイレに誘導している。布パンツやリハビリパンツ等排せつ用品も個別に検討し、尿意の有無等を見極めながら支援している。オムツ使用には、プライバシーに配慮し居室での交換としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、排便なし3日目、看護師へ報告、服薬等で排便を促す。できるだけ食べ物や運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本として、バイタルサイン測定により入浴可否をみきわめている。入浴剤等で気分を変えて貰ったり、お風呂の温度をその方に合わせゆったりとした時間を楽しんでもらっている。	バイタルチェックにより入浴可否を見極め、週2回を基本としているが、入居者の入りたいとの希望や主治医に指示等に応じ支援し、入浴はリフトを使用している。また、入浴拒否者には、「一番風呂ですよ」等声かけを工夫しながら入りたい思いを引き出している。ゆずやしょうぶ湯や好みの温湯等楽しみな入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は、本人の意思を尊重し居室の温度や湿度や明るさは、個々に合わせ、安眠を促している。昼間は体調に合わせて、休息を取ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬の目的、用法を看護師と介護者は理解しており、症状の変化を介護者は看護師へ速やかに報告連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせて、日々のお手伝いを役割として持っていただく。施設の行事(春の花見、夏の祭り...)等を楽しんで頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防のため、家族との外出支援は出来なかったが、お天気の良い日曜日をドライブの日とし、施設の畑や花壇を見て気分転換を図る	外出は難しい状況にはあるが、「海が良いですか、山、町がいいですか」等入居者に聞き取りし、ドライブを支援している。アジサイ見学、粟島神社での初もうで、桜の花見や菜の花での室内でのお花見会、三角へのドライブ等職員の工夫により出かけており、今のコロナ禍の中で出来る限りの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことを強く希望され、紛失の可能性を御家族の承諾がある方のみ支援しています。主に施設の外にある自動販売機でのジュースの購入の支援を行います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日職員が清掃、消毒を行い室温換気にも気を配り、感染予防に努めている。施設の長い廊下を活かし、季節感のある、飾りを行ったり、季節の花を生活け季節を感じて頂いている。	玄関の内外には草花が季節感を醸し、ユニット毎に廊下の壁面には職員の特技を活かした作品や写真が掲示されている。新型コロナウイルス感染予防対策にエヴァ水を活用し、既存の建物を使用したホームではすべてがバリアフリーとはいえないものの職員が一手間かけて居心地よい環境を整備している。廊下でテレビを観たり、会話を楽しんだり、一人になるコーナーを設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や共有スペースにテーブルやソファを置き、一人で居たいとき、気の合う入居者様同士でお話を楽しんで頂くために、利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけ馴染みの物、使い慣れたものを居室に置いていただき、入居者様の居心地の良い空間作りをして頂いている。	入居時に馴染みの物の必要性の説明と、申込要綱の中に記載し、必要な品物を明確にしている。ホームではもともとベッドや整理タンスは用意されているが、ベッド・テレビ・タンス(ボックス)や冷蔵庫が持ち込まれ飲み物等を入れ管理される方もある。ベッド配置については、体位交換がしやすい場所として、居心地の良い環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない方の為に、「トイレ」の表示を大きくし、車椅子のかたの居室は表れをその方の目線に合わせ低くし、分かりやすくしている。入居者様が移動される場所へは障害となる物を置かない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100530		
法人名	株式会社 サンコーライフサポート		
事業所名	グループホームうきうき		
所在地	熊本県宇土市松原町120-2		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうきうきでは、家庭的な環境の中で、利用者様の思いをくみとり、一人ひとりの不安感や寂しさを和らげ、笑顔ある生活の提供のために、職員一人ひとりが考えるケアの実践をしています。コロナウイルス感染を予防しつつ、館内で出来る毎週月曜日のシニアヨガでは、日頃動きの少ない利用者様も、職員が驚く動きをみせられます。又、散歩やドライブへ行きたいとの要求に答え、毎週日曜日には、外出の日を設けています。季節の行事を積極的に取り入れ、昨年より力を入れ、日頃見れない笑顔を沢山見ることが出来ました。利用者様と地域の皆様との関りや、ご家族との面会も今年度はできず、利用者様の不穩に繋がらないか心配しましたが、一人ひとりに寄り添う事で、大きな事故もなく、笑顔で過ごしていただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で経営理念の唱和を行う事で、職員の意識し、入居者様の安心、安全な生活の援助の実現を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流バザーや敬老会では地域の方や入居者様との交流がみられ、ふれあいカフェでの知名度も上がり、新規利用者の獲得を目指している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいカフェの開催は利用者の憩いの場としても機能しており、地域の方と、職員、入居者様の交流の場として定着している。又、高齢者向けの宅配弁当も、一人暮らしの方等継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は現状コロナウイルス感染予防の為開催を見送っている。会議は行っていないが、書面での活動報告は地域の民生委員や包括、市役所、入居者様ご家族に対して行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議には、毎回参加頂き、施設の活動を理解頂いている。協力医療機関や関係者からのアドバイス等は受け入れ、出来る範囲でお答えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げてはいるものの、委員会メンバーでの会議の開催は出来ていない。しかし各フロアの勉強会等で、拘束をしない為の、検討、検証は必要に応じて行う事としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体的な虐待を見逃さないよう毎日のバイタル測定時等に腕の確認、入浴時には、全身チェックを行い言葉遣いについては、その都度注意し合うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、研修等、見送られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は事前に施設見学を行い、入居者様、そのご家族に納得し安心して頂けるように説明し、納得の上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月介護記録やうきうき独自の社報の中に生活状況の報告、さらに写真を添付しその状況をよりわかりやすくお伝えしている。 又、毎月返信用ハガキにてご意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は、定期的に会議、打ち合わせを行い、出勤時は都度社内メールにて相談、報告を行っている。職員に対しての、周知は朝礼やスタッフ研修の際に通達行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、賃金体制、人事制度の整備、公表を行い、個人と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、外部勉強会や講師の先生を招いての研修を行い、社内でも勉強会の内容をさらに深める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区グループホーム連絡協議会に加盟し、他施設管理者との情報交換を行ったり、合同勉強会を定期的に行っているが今年は新型コロナウイルス感染防止の為、交流を控えた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者と看護師にて入居面談を実施し、要介護者の情報収集含め、お困りごとを聞くようにしている。入居後は傾聴に努め、スタッフ間の情報交換を密に行い安心した生活を送って頂くよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	守秘義務の説明を行うと同時にご家族様の不安や苦労を傾聴し、専門職として、要介護者、そのご家族に対しても信頼して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前状況と入居面談での情報を受け、入居判定会議を行い入所判定を行う。又、必要なサービスをカンファレンス等行い利用者に合ったサービスを決定する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様お一人お一人の能力に応じた役割を見つけ居場所を自ら作って頂きながら、やりがい、生きがいを感じて頂けるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や外出の際に、交流の機会を作っている。ご本人様の状態は毎月の介護記録にて随時報告行っている。必要に応じて電話での情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との面会の機会をご家族と相談しながら行っている。又、使い慣れた家具等の持ち込みを入居者のキーパーソンに推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係作りには職員の目配り、気配りし双方にとって、トラブルに繋がらないように意識している。又利用者がお互いに支え合う場面も多くみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話連絡等で繋がりを持ち、相談等があった際には、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の様子、状態を観察し、スタッフ間で共有しながら、馴染みの関係の構築を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既往歴を知る事で、ケアプランの内容に反映したり、出来るだけ本人に生きがいを感じて頂けるように努めている。趣味や買い物等。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護士、看護師が連携と取り、報告、連絡、相談を欠かさず行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の介護研修や勉強会にて、モニタリングを行い、又、状況が著しく変化した際は緊急カンファレンスを行い、事故報告書やヒヤリハット報告書等を分析しより良いケアの実現を目指している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録等を活用し個人の状態の変化に気づき、又早期発見できるよう、スタッフ間で連携を取り、必要に応じて、プランの見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の定期受診や急変時の受診でご家族の対応が難しい方は、入院中や入院後の支援もサービスで行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協力の一環として、以前迄利用されていた、美容室を定期的に利用して散髪、ブローをお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前かかりつけ医の継続を行い普段の生活記録や状態を介護記録に残し、定期受診の際に随時報告している。急変時には、すぐに対応、診療して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職の情報の共有ができており良好な体制である。又、看護師も現場業務に従事し状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際はキーパーソンへ連絡し、病院での治療がスムーズに出来るよう情報提供を行っている。入院後も本人の不安を和らげる為、面会し、治療後は家族と退院計画を話し合いながら、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針はまず入居契約の際に説明しご理解の上で、重度化になられた際は再度キーパーソンに説明、報告し、意向確認を行いながら、ご家族、主治医、施設が連携しターミナルケアを行い、その方らしく送れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、マニュアルに沿ってオンコールの看護師の指示を受けながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者指導の下、年に2回定期的に避難訓練を行っている。災害備品管理等も総務で保管、管理している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の既往歴やライフスタイルに合わせて言葉掛けし尊厳やプライバシーを損ねる事のないよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向、意思を尊重し受容と共感の姿勢で自己決定が難しい方はナンバーバルコミュニケーションを活用し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活習慣を尊重し、その方らしく生活して頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の好みをご本人やご家族に確認しその人らしく髪型、服装等清潔にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様の楽しみの時間の一つでもある食事の時間では、ご本人が食べやすい形態で提供し、また食後は、洗い物やお盆拭きが出来の方は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士の献立で、食事のバランスを考え、入居者の体調や好みを観察しながら美味しく、楽しく栄養摂取出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底しており、拒否が強い方に関しては、うがいだけでもして頂くよう促している。又、そのような方については医療連携協力機関である、訪問歯科に依頼し、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個別で、排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を実施している。トイレの場所が分からない方向けに、案内板を設置し、必要に応じて、お声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行いながら、必要に応じて看護師に相談し下剤の与薬や、排泄を促す為に、牛乳等を飲用して頂いたり、軽い運動で腸の運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は設定しているが、入居者様の状態や気分に応じ、午前中であっても入浴をして頂き、季節に応じ、入浴剤や柚子風呂等を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者お一人お一人の状態に応じ、休息をとって頂いており、必要に応じて看護師に相談を行っている。基本的には就寝時間等は本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職は、定期薬の内容、目的の理解に努め、必要に応じて、看護師に相談したり、自ら調べ、把握に努めている。臨時薬等については、随時看護師より、使用用途の指示を受けながら、与薬、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な生活にならないよう、職員は日々レクを考えたり、季節の行事や掲示物等で季節感の演出や気分転換に努め、天気や状態を観て、ドライブに出かけたりと、工夫しながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の状態を観ながら、ドライブに出かけたり、季節の花(紫陽花や菖蒲、ひまわり)等の見学に行き、四季を感じて頂くよう努めている。 又、個人では、自由にご家族と連絡を取り合い、外出や外泊出来るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことを強く希望され、又紛失の可能性をご家族、ご本人に承諾頂いた方のみ支援している。又自動販売機の利用や、道迎えのコンビニを利用されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日職員が清掃し、清潔を保ち必要に応じて共用部の消毒や換気の実施、展示物等にも、季節感や感じて頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを設け気分に合わせてくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた寝具や、家具等を使用して頂く事で、これまでの暮らしの延長として環境を変えないよう努めて頂いており、入所後も本人の希望を聞き入れたりご家族と相談しながら整備している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や、車椅子の移動に弊害がないように空間にゆとりが出るよう展示物とうには、配慮している。		